

【報道関係各位】
2026年9月11日
株式会社メディデント
ミライズウェルメディカルグループ



ミライズ矯正歯科南青山・富田大介、顎変形症治療の情報共有と医療教育をテーマに日本デジタル矯正歯科学会で発表

-骨格・歯列・顔貌のデータをつなぎ、患者説明と医療者の学びを支援。
XR・3Dクローン・AIの開発を紹介-



第5回日本デジタル矯正歯科学会 学術大会で講演する富田大介

ミライズ矯正歯科南青山（東京都港区南青山）の富田大介（ミライズウェルメディカルグループ代表・統括院長／株式会社メディデント代表取締役CEO）は、2026年9月6日（日）、JPタワー名古屋 ホール&カンファレンスで開催された「第5回 日本デジタル矯正歯科学会学術大会」にシンポジストとして登壇しました。

発表では、骨格・歯列・顔貌のデータ統合を出発点に、患者さんが治療方針を理解するための説明、医療チームの情報共有、医療者が繰り返し学べる教育環境づくりを紹介しました。XRによる立体表示、教育用3Dクローンフェイスモデル、AIによる診療支援へと展開し、会場では先行展示も実施。臨床の課題に基づく開発と、今後検証する項目を発表しました。

取り組みの目的：患者さんに伝わる説明／医療チームでの情報共有／繰り返し学べる医療教育／記録作成の支援

臨床データをつなぎ、「見て・触れて学ぶ」医療教育へ

背景：検査ごとに分かれた情報を、共通の患者情報へ

顎変形症の診療では、歯並びや噛み合わせだけでなく、顎の骨格や顔面軟組織との関係を踏まえて治療方針を検討します。検査機器ごとに情報が分かれていると、医療者は複数の画像を見比べ、患者さんにもその関係を説明する必要があります。講演では、こうした臨床課題を起点に、データの取得・位置合わせ・共有までの運用を整える取り組みを紹介しました。

三次元データ統合とXRによる情報共有

CBCT・口腔内スキャン・顔貌スキャンの情報を位置合わせし、骨格・歯列・顔面軟組織の関係を共通のモデルで把握することを目指しています。XR（VR・AR・MRなどの総称）による立体表示を活用し、医療チームでの検討や、患者さんへの「歯と顎の位置がどう関係しているか」という説明につなげます。位置合わせの精度を確認し、診断や治療方針の判断は医療者が行います。

3Dクローンフェイスモデル：反復して学べる教育用患者代替モデル

三次元データをもとに骨・歯列・皮膚・粘膜などの顎顔面構造を一体的に再現するモデルです。複数の材料や色を用いた造形により、視覚に加えて触覚を伴う解剖学習や手技学習への応用を目指します。ここでいう「クローン」は立体的な患者代替モデルを意味します。

現在は初期プロトタイプの段階です。寸法精度、材料特性、教育効果、運用性を検証する方針を示しました。術前シミュレーションへの直接使用、出血反応・体温・顎運動の模擬、AIによる手技解析との統合は、今後の検証や開発のテーマです。

研究の継続性：日本顎変形症学会での発表から今回の展開へ

当院は第36回日本顎変形症学会での3Dクローン技術の発表についても報告しています。今回の講演では、三次元データの統合からXR、実体モデル、AIによる支援までをつなぐ取り組みを紹介しました。

関連する発表報告：<https://mirise-ortho.com/news/information/3928/>

AIによる診療支援と、大学・企業との対話

臨床課題から生まれた3つのAI関連システム

- Mirai Hub：予約・診療記録・画像・文書など、院内に分散した情報へアクセスするための基盤。発表時点では試験運用とローンチ準備の段階として紹介しました。
- AIカルテ：歯科・矯正の用語を踏まえ、診療記録の下書き作成を支援する取り組み。自院での運用を通じて改善を進め、公開に向けた準備を紹介しました。医療者による確認・修正・承認を前提としています。
- 3D Faceシミュレータ：顔のスキャンや計画の情報をもとに、説明用の予測イメージを共有する展示デモ。予測画像は目安であり、実際の顔貌変化や治療結果を保証するものではありません。

学会で深まった交流を、次の検証と教育につなげる

登壇者による当日の報告では、発表後や展示の場で多くの歯科医師から声が寄せられ、大学関係者との交流や企業との意見交換が進みました。今後は、寸法精度・材料特性・教育効果・運用性の評価を軸に、臨床、研究、工学、教育の視点を持ち寄り、具体的な検証につなげる方針です。連携の具体的な内容は、協議・検証の進展に応じて発表します。

講演では「MIRISE Global Academy」を通じた国際臨床教育の取り組みも紹介。2026年8月にはトルコからの参加者を含む3日間の国際臨床研修を実施しており、国内外の医療者との学びや対話を開発と教育に反映することを目指しています。



日本デジタル矯正歯科学会から富田大介に贈られた登壇への感謝状（2026年9月6日付）

学術大会の会場・展示風景



講演の開始時に投影された演題と、聴講する参加者の皆さま



第5回日本デジタル矯正歯科学会 学術大会での集合写真

展示を通じた技術紹介と交流



Dr. Tao Guo（中央）、SmarteeのHead of International Businessを務めるMr. Garie Chow（右）と富田大介（左）



展示ブースで3DクローンやXR機器を紹介し、参加者と交流する様子

開催概要・発表者・お問い合わせ

開催・登壇概要

大会名	第5回 日本デジタル矯正歯科学会 学術大会
大会テーマ	デジタル矯正の深化 ～AIが臨床を支え、臨床がAIを導く その共進化が矯正の未来を創る～
開催日	2026年9月6日（日）
会場	JPタワー名古屋 ホール&カンファレンス（ハイブリッド開催）
登壇者	富田大介（シンポジスト）
演題	顎変形症治療の未来を拓くデジタルデータ統合 — XR・3Dクロールンフェイスモデル・AIへの展開 —
大会公式案内	https://j-dos.org/academic-conference_3

今回の登壇に際し、日本デジタル矯正歯科学会より富田大介に感謝状（Certificate of Appreciation）が贈られました。

ミライズ矯正歯科南青山・発表者について

ミライズ矯正歯科南青山は、東京都港区南青山の矯正歯科医院です。富田大介はミライズウェルメディカルグループ代表・統括院長、株式会社MEDiDENT代表取締役CEOとして、矯正歯科・顎変形症領域の臨床と、三次元データ・XR・3Dクロールン・AIによる教育・診療支援の開発に取り組んでいます。3Dクロールンの設計・造形では株式会社日南の技術協力を受けています。

発表者プロフィール：<https://mirise-ortho.com/staff/>

本件に関するお問い合わせ

ミライズ矯正歯科南青山

所在地：東京都港区南青山6丁目13番5号 ポルトポヌール1階

メールアドレス：info@mirise-ortho.com

電話：03-5468-5585

公式サイト：<https://mirise-ortho.com/>

今回の発表報告：<https://mirise-ortho.com/news/information/4178/>

取材・研究・教育・技術開発に関するお問い合わせの際は、「日本デジタル矯正歯科学会での発表について」とお伝えください。

※研究・製品の状況は2026年9月6日の発表時点のものです。各技術の開発段階は本文記載のとおりで、治療成績や教育効果は今後の検証課題を含みます。富田大介は、紹介する3DクロールンおよびAIシステムの開発・臨床教育事業に関係しています。